



2017年6月6日から10日にかけて、私はベトナム国のハノイ近郊へ行った。目的は「リサイクル工芸村」である。「リサイクル工芸村？」これまで解体現場を見てきた私は、その言葉の響きに、とても興味を持ち、是非、見たいと思っていた。

今回は、ベトナムについての雑駁な話と、リサイクル工芸村として知られている Tè Lõ (テーロー) 村で訪問した4輪リサイクル業者について話してみたい。

本稿の目的は、皆さんにベトナムへの関心を持って頂くことがある。私には、大切なベトナム人の友人がいる。自分の研究フィールドを通じて、彼らの文化を知ってほしいと思う。それと、車は、魔法の財であり、各所で価値を生み、循環していることを、私と一緒に体感して欲しいと思う。

なお、リサイクル工芸村については、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所・経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課『平成27年度インフラシステム海外展開促進調査等事業（ベトナム：使用済製品の回収・リサイクル事業実施可能性調査）調査報告書』も参照されたい。

私は宿を首都ハノイに取った。旧市街からは2kmほど離れた日系の有名ホテルである。通訳さんからは「この宿も素敵ですが、旧市街のホテルもベトナム文化を楽しめて良いですよ」と勧められた。次回にはそうしたい。首都ハノイは都会である。人も街も活気に満ちていて、バイクと4輪が、勢いよく、我先に…と走っている。女性のバイク乗りでよく見かけるスタイルはフード付き長そでシャツである。通訳さんによれば、ユニクロのフード付き長そでシャツが人気らしい。でもハノイには販売店舗が無いため、日本土産としてよく頼まれるという。



宿のお部屋から見た街の様子。大都会だ。ホテル対面は、常設のサーカスがある。遠くには高層ビルが見える。



ハノイの通勤風景。バイクが車線を独占している。



手前はフード付き長そでシャツの女性である。足元にクラッチがあるのでカブと思われる。奥は電動自転車である。免許不要。高校入学祝として贈られることが多いとのこと。

ハノイから車でテーロー村へ向かう。テーロー村は Vinh Phuc (ヴィンフック) 省にあり、首都ハノイから約 60 km の距離である。ハノイから離れると、車窓からの景色が徐々に変化し、どこか懐かしい牧歌的な風景になる。農村では「牛」が活躍しており、牛が田畠を耕す風景が見られる。

1時間ほどでテーロー村に到着する。テーロー村の入り口としての目印はタイヤの山である。タイヤの山にテンションが上がる。車を止めてもらい、写真を撮る。通訳さんが「タイヤ村ではこんなもんじゃないですよ。もっと、ありますよ」とのこと。「タイヤ村？」そこも行きたいと、通訳さんへ、おねだりをする。



(左) 農家に欠かせない働き手の牛。コンバインを使う農家も見えるが、多くは牛である。



(右) テーロー村の入り口に置いてあるタイヤ。

村の入り口に近い解体業者を訪問する。ヤードの奥から、女性が出てくる。話を聞くと、この業者では、10年くらい前から当地で解体をしている。その前はハノイ近郊で営業をしていたが、土地の問題で当地へ移ってきたのだ。この女性は経営者の奥様である。

ご存知のように、解体業者では、廃車を解体し、①中古部品をメインにしている業者、②部品ではなく鉄・非鉄のスクラップをメインにしている業者、③中古部品とスクラップの両方を行う業者がある。

また、中古部品については、①廃車を解体しない状態で敷地に置き、お客様が車を見て「これが欲しい」と言われた部品を取り外して販売する「もぎ取り販売」と、②入庫した廃車を直ぐに解体し、中古部品を在庫として保管して販売する「在庫販売」とがある。

1か所目の業者では、中古部品とスクラップの両方を行っており、中古部品については、在庫販売ともぎ取り販売をしているとのこと。見る限りでは、「これが在庫部品なのかなあ？？」という疑問を持つ。



(左) ヤードの入り口。いつも 30 台ぐらい在庫している。部品を販売して残ったガラはスクラップ扱いとなる。(右) 取り外されたと思われる部品が散乱。部品を車の型式では無くて車種で整理する。

どんどんと話を聞いていくと、この業者では、田舎への中古車販売がメインなのではと思えてきた。ついつい日本の感覚で比べてしまい、ヤードにある車を廃車と考えてしまう。私には「この車は走らないだろう」という思い込みがある。打ち解けてきたからかな、奥様が話を続ける。

(奥様)「中古車は処理登録が無くなった場合、違法なので、都会では無くて山の方でずっと使う。あういうところで、壊れたら部品が欲しい。バスとして使える感じの車がいい。ほとんど登録処理が無い。廃車扱いのをそのまま(中古車として)使う」

あっ、なんかマズイことを聞いてしまったかも・・・。

どうやら、ここでは、都会で使い古されて、車両登録がされなくなった車を、田舎へ販売するようだ。古い車のため、新車に比べて故障も多い。そこで、中古部品へのニーズも出てくるということである。なお、田舎では、古い車が好まれるそうだ。これは経済的な理由によるものと思われる。

奥様に話を聞いているとご主人が登場した。

(主人)「日本車ナンバーワン! 車がどんどんあればください。ベトナムの大霖とか気候に耐えられるのは日本車よ」

#### 【1か所目の基本情報】

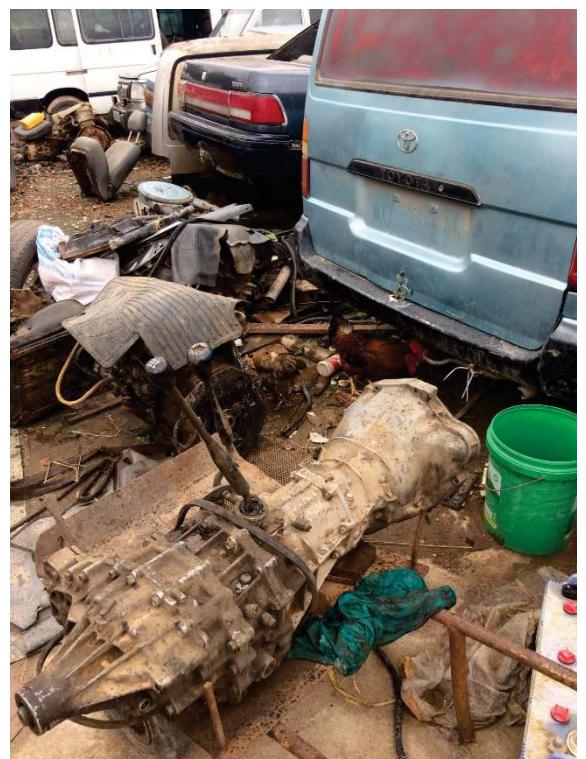
- ・操業期間: 当地では10年
- ・仕入先: ベトナム国内全土(詳細不明)
- ・仕入方法: 売り込み電話、SNS(Zalo, Facebook)
- ・仕入台数: 常時在庫台数を30台に保つ。メーカーは日本。
- ・仕入単価: 5,000,000~20,000,000ドン(25,000~100,000円) 年式・品質で異なる。
- ・業務形態: 部品販売、マテリアル販売、中古車販売
- ・販売先: 車両は田舎へ、中古部品は不明。スクラップは買い取り業者(買い取り業者は村北部の電炉で売却)。
- ・従業員数: 社長含め3人



(右) トヨタランクル。ナンバープレートが付いたままだ。(左) 車検は2016年8月とある。



(左) 中古車販売用と思われるワンボックス車、四駆車である。また、手前に部品があるが、解体したエンジンもある。エンジンは解体されており、エンジン内部の部品を販売しているのか。(右) 中古車販売用と思われるセダン車、ワンボックス車である。中古部品として販売すると思われるエンジンがある。



1か所目の業者と別れて、村の奥へと歩く。中古重機販売業者が道の両脇に続いている。しばらく歩くと、テーロー村のゲートが見える。村が車のリサイクルに力を入れていることをアピールしている。

ランチ後に、「xe ô tô（車）」の看板がある業者にふらりと入る。ヤードの真ん中に、通路があり、両脇には中古部品が大まかに区分されて置かれている。ヤードの奥には、トタン屋根の建屋がある。ご主人にロフト（のような）2階へ案内される。このロフトが事務所のようだ。ヤード内には解体スペースは無い。しかし、部品が大量にある。部品を他から仕入れて販売しているのか？

話を聞くと、6年前から当地で車を解体して、部品販売をしているとのこと。月間の解体台数は23・24台である。

（主人）「もっと大きな在庫置き場がある」「ここは部品を販売する店であり、解体場所は別のところにある」

別の場所は村の中で、ここから近いという。見せて欲しいとお願いをするとご主人は快諾をする。早速、店から移動をする。

これだけの量の部品があるということは、結構、広い敷地と多くの廃車があるのでは・・・と期待して行く。しかし、案内された解体場所は期待以下でガッカリした。置いてあるのは錆が出ている古い車である。

（木村）「ここですね？」（主人）「ここです」

（主人）「古い車は博物館に売れるかなと思い購入した」「1980年位の年式。ロシア製です」

月間23・24台と言っていたが本当なのかしら？ロシア製の車を見ていると、もう1か所、別の場所があるという。ご主人について行くと、広場を紹介された。広場は、道路に面しており、奥まで広がっている。これだけの広さなら3・4台の解体作業が出来そうである。

（主人）「ここで解体を行う。解体の道具は中に置いておいて、作業をする時に外へ出す」

道具を置いてあるという「中」とは、自宅と部品置き場である。それは解体用の広場の2軒隣にある。ご主人について行く。入り口から奥まで、部品が大量に置いてある。

解体をかなりやっているぞ！儲かっているぞ！本当に商売をしているのかと疑ってしまい申し訳ございません。



ランチは bún chả（ブンチャ一）。一般には「つけ麺」だが、この店では「汁アリ」である。



（左）重機の中古車が並べられている。車体には日本語らしき字が書かれている。

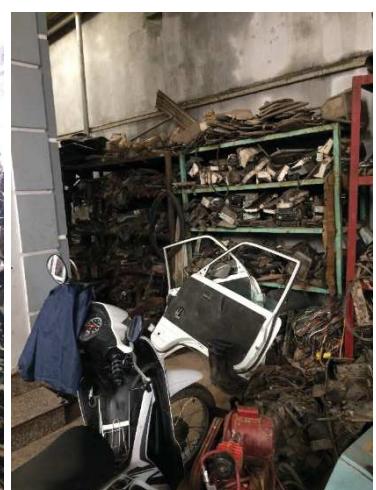
（右）「CHỢ Ô TÔ TỀ LỘ 自動車テーロー（村）」とある。

【ベトナム車検情報】出所：2017年8月25日、VAMA（ベトナム自動車工業会）へのヒアリングによる。

法律で、トラックは25年、バスは20年で廃棄することが規定されている。しかし、乗用車については廃棄規制が無い。車検をVR（Vietnam Register）で受ける。車検は、新車時、購入後2.5年、続いて、2.5年後、1.5年後、1.5年後、1年後、1年後である。10年後は6ヶ月ごとに車検となる。



(左) がっかりした広場である。部品の一部と、博物館向けに購入したロシア製「ラダー」がある。(右) 解体を行う広場。敷地は土である。入庫のうち 3 分の 1 を中古車として販売する。残りは解体をして部品取りをする。ガラをマテリアル販売する。



オーディオが置かれるラックである。オーディオは中古部品として販売される。

(左) 自宅兼、倉庫の入り口である。手前から奥の自宅まで、両脇に部品が所狭しと並べられている。(右) 壁のラックと床には部品が置かれている。

## 【2か所目の基本情報】

- ・操業期間：当地では 6 年
- ・仕入先：ベトナム国内全土。会社、警察の処理車。
- ・仕入台数：23・24 台/月間。メーカーは韓国、日産、マツダなど。80 年・90 年代の年式。
- ・仕入方法：売り込み電話、SNS (Facebook)。
- ・仕入単価：不明
- ・業務形態：部品販売、マテリアル販売、中古車販売
- ・販売先：車両・中古部品は不明。スクラップは買い取り業者（買い取り業者は村北部の電炉で売却）。
- ・従業員数：社長含め 2 人